

ねじりはちまき

5月 皐月（さつき） 立夏 小満の月になりました。
5月1日メーデー、2日八十八夜、3日憲法記念日、4日みどりの日、
5日こどもの日と立夏がいっしょです。10日母の日、21日小満の日
となっています。

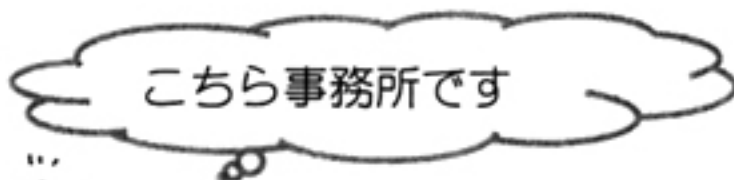
四季の中でも、春ほど人々が待ちこがれる季節はないでしょう。
厳しい寒さがゆるんで、野山には花が咲き、芽生えや産卵の時季であり、
新しい生命が誕生します。
春の明るさ暖かさは、固くなった心を優しく解きほぐしてくれます。
そして、満開の桜を堪能し、私たち日本人は行く春に寂しさを感じます。
他の季節の終わりとは違った格別な思いですね。

また、「春の別れ」「春の名残」「春の暮」など、様々な心情を表現する
季語があります。

来月は雨の多い月になります。雨漏り、排水など点検しておきたいです
ね。

幸田 常一

♪♪♪



郡山市の現場はずっと続いておりますが、間もなく完成です。
二本松市の現場は6月いっぱいの完成なので、急ピッチで作業が進めら
れています。

また事務所内では、お客様や業者様との打合せや、図面の作成や申請
書類の作成など、進めているところです。

<会社近況>

5月に入りました。暖かくて、気持ちのよい日が続いています。
新入社員の佐藤くんも入社して早2ヶ月になり、すっかりなじんでしまった？
感じです。
新生活をスタートさせた佐藤くんも、緊張が続いたことでしょう。
この連休はゆっくりと心身を休めて、リフレッシュできたのではないでしょう
か。
私、事務員kは実家の田植えの手伝いをするつもりで準備して出かけました
が、玄関先で「もう終わった。」といわれました。
みなさんは、どんな連休を過ごされたのでしょうか。

現場の方は二本松市杉田で、グループホームの建設工事をお世話になって
おります。工期は6月いっぱいですし、2棟を同時進行で建設していくというこ
となので、知り合いの大工さんにも応援して頂きながら、進めているところデ
す。
本当にたくさんの方々に助けて頂いていると、感謝の気持ちでいっぱいです。

☆☆

<網戸の張り替え>

暖かい日が続きますね。
少しずつ、夏に向けての支度をしてはいかがでしょうか。
例えば網戸。網戸は今、どんな状態でしょうか。
よれよれになっていませんか？
穴は開いていませんか？
網を押さえるひも状のゴムは劣化していませんか？
ちょっとの隙間や裂け目から、細かい虫たちが入ってきます。
1枚1枚点検されるとよいと思います。
ピンと張られたきれいな網戸。
夏になる前に、整えておきたいものですね。

おいしい♥5月

「わかめ」

えっ、なんでわかめなの？と思われたことでしょう。
わかめは1年中食べられますが、3月～5月が旬なのだそうです。
ビタミンやミネラルが含まれており、栄養面でも優れています。
古来より、日本人に親しまれてきた食材でもありますね。

11月頃に発芽して、初夏に成熟しますが、若いほど味がよいため春に
水揚げされます。

サラダや味噌汁、スープ、酢の物、卵でとじたり、さっと炒めてもおいし
いですし、和風パスタの材料にも合いますよ。
色々使えて便利な食材ですね。

「立夏」

5月5日、立夏です。
今日から夏ですよ、ということ
ですが実感としてはまだまだ
ですかね。ただ、日射しは強く
なってきましたね。木々の若葉
青葉の緑があざやかさを増し
てきます。

「八十八夜」

立春から八十八日目。
5月2日です。お茶を摘み始
める日で摘まれた一番茶が新
茶として出回ります。新茶楽
しみですね。(*^_^*)



宗像大社が世界遺産に登録されたとの報を受け、何故世界遺産に登録されるような神社が九州にあったんだろうかと思い、いろいろ調べているうちに「日本歴史における九州の舞台」を書いてみたくなり、筆をとった。さてどんな展開になるかお楽しみに。

まずは、日本神話「古事記」に登場する「天孫降臨の地」は日向（宮崎県）である。何故日向だったのかは分からないが、初代天皇の神武天皇はそこから大和へ東征し、大和政権を樹立するのだ（何故大和でなければならなかったのかも分からないが）。ところで、この大和政権に対し、そもそも九州北部に「邪馬台国」があったという説（畿内説もある）がある。魏志倭人伝（3世紀末の中国の歴史書）に記されている女王卑弥呼で有名な「倭国」である。ここでは二説の吟味をするつもりはないが、大陸（朝鮮半島）との関係を考えると十分あり得る話であると言っておく。ところで、朝鮮半島との関係で、九州北部の豪族のうち航海術に優れた者が交易を担っていたのだ。当時日本にとって大陸の技術と文化を導入することは政権基盤を強化するには欠かせないものであった。当然交易の担い手は大和政権から重宝にされた。その一人が宗像氏である。交易には航海の安全が不可欠である。宗像氏は交易の担い手としてばかりでなく、玄界灘航海の安全を祭祀する役割も大和政権から委ねられたのである。従ってそれは国家的祭祀である。その祭祀が行われたのが沖ノ島なのである。国家的祭祀は4世紀頃から400年ほど続き、その後も祭祀は宗像氏が担い、宗像大社（沖ノ島は沖津宮として。その外中津宮、辺津宮あり。）として今日に至っている。沖ノ島は今でも女人禁制である。沖ノ島の祭祀史跡を辿ると、日本における神社神道の祭祀様式の変遷が良く分かるとされる。また、沖ノ島の史跡から出土した8万点に及ぶ遺品（国宝）から当時の交易で重視されたもの（特に鉄は日本では作れなかった）がこれまたよく分かる。また、この交易の中で技術と文化を身につけた渡来人も歓迎された。ところで大和政権はどこと交易していたのか。当時朝鮮半島には高句麗、新羅、百済の三つの国があったがそのうちの百済である。その百済が新羅の関係で戦いになり、大和朝廷は百済支援の派兵をしたのである。いわば海外派兵である、日本史上初のものだ。その戦いは百済・倭国連合軍が新羅・唐連合軍に敗れる（663年・白村江の戦い）。この戦いの前のことで一つ。実は527年に八女の豪族・磐井氏（新羅と交易していた）が大和政権の朝鮮半島への出兵を阻む行動にでたのである。そこで大和政権は物部氏軍を派遣し、翌年その乱を鎮圧した、ということがあった。この乱は朝鮮半島南部の利権を巡る主導権争いで、当時は大和政権の力も地方に対してまだまだ及ばないところがあったということを示している。白村江の戦いの頃になると大和政権も大和朝廷として安定してくる。次は大宰府の話に移る。九州を管轄する大和朝廷の地方行政機関が大宰府である。現在の太宰府市に置かれた。大宝律令の制定（701年）前には外にも置かれたが、大宝律令によって九州・筑紫の大宰府のみとなった。現在の太宰府市を含む筑紫地方は東アジアとの交流拠点であったこともあり、単なる地方行政機関ではなく、九州大宰府は外交・防衛も担当し、強い権限があったので「遠の朝廷（みかど）」と称されたという（防衛の任務は白村江の戦いに敗れたことによる）。ちなみに大宰府には千人ほどの官人が勤めていたのだ。この大宰府に有名な学問の神・菅原道真が左遷（901年）される。朝廷で醍醐天皇の信任を得て、右大臣にまで昇りつめた道真であったが、あらぬことで讒訴（ざんそ）されて左遷の憂き目に会う。道真は間もなく大宰府で生涯を終える（903年）が、その後天変地異が続けて起こり、道真の怨念を鎮めんとして一条天皇から亡き道真に「北野天満宮天神」の称号が贈られ、祀られた（987年）。やがて、道真は学問の神様となり、大宰府にも天満宮が建立されたという次第である。こうして道真は現在も学問の神、天満・天神として信仰されている。小生も参拝したことがある。道真が京の我が家を偲んで、「東風（こ

ち) 吹かば 匂い起こせよ 梅の花 主(あるじ) なしとて 春な忘れそ」と詠んだ和歌は有名である。

九州・筑紫は東アジアの交流拠点と先に触れたが、シルクロード経由の文化が奈良・法隆寺に伝えられたのもここを経由したであろうし、遣隋使や遣唐使の船もここを経由したであろうし、空海や最澄の唐に渡ったときもここを経由したであろうことを思うと、この地域の果たした日本歴史上の役割は誠に大きいものがあるといえる。

また、白村江の戦いに敗れて倭国防衛のために大宰府に防衛機能を持たせたことに触れたが、その後の歴史上登場する「元寇」や「秀吉の朝鮮出兵」の時はどうだったのだろうか。先ず「元寇」だが、鎌倉時代中期2度(1274年・1281年)に亘ってフビライ帝国の蒙古軍が我が国を侵攻したのである。侵攻は島々を襲ってから博多湾より上陸し、大宰府を陥落させようとするものであった。一度目は博多湾から上陸はするものの日本軍の健闘により、蒙古軍にとって形勢不利となり撤退した。二度目はまた、博多湾からの上陸を試みるが、日本側が襲来に備えて強固な石築地(高さ3m・幅2mの約20kmに及ぶ)を築いるのを見て上陸を断念し、各所で侵攻を展開するもこれまた形勢不利となり撤退する羽目となる。その途上台風襲来して艦船がことごとく難破するのである。これが神風?

次が「秀吉の朝鮮出兵」の時の話。「唐入り」を宣告した秀吉は1592年に朝鮮出兵をした。翌年一旦休戦し、講和交渉するも決裂、戦闘再開となるが、秀吉の死をもって1598年に終結する。この出兵に際し、遠征軍の宿营地として肥前国(現在に佐賀県唐津市)に名護屋城が築造される。全国の諸大名が結集し、城下町を形成、最盛期には人口十万人を数え、政治・経済の中心地の様相を呈する程の活況を呈したといわれる。

また、九州には戦国時代から徳川時代初期にかけてキリスト教信者が多数いた。キリスト教はフランシスコ・ザビエルが1549年薩摩に上陸して我が国に伝えたのが最初。その後九州全域に急速に広まり、やがてキリシタン大名まで出現する(有馬晴信・大友宗麟・大村純忠など)。しかし、秀吉の時代からキリシタン弾圧が始まり、徳川時代になるととうとう幕府は1613年キリスト教禁止令を出すに至る。この間酷い弾圧がなされ、これに耐えかねた天草四郎率いる大規模な島原の乱(江戸初期)があったのは知られている。

キリスト教伝来とほぼ同じ時期、大隅国の種子島にポルトガル人によって鉄砲も伝来した。次の話は江戸時代。鎖国令(1633~39年にかけて数次に亘って出された)が出された後のこと。幕府は長崎の出島でそれまで行われていたポルトガルとの貿易を断絶し、平戸に置かれていたオランダ東インド会社の商館を1641年に出島に移し、オランダとのみの貿易が200年続くことになる。その貿易の監督は長崎奉行が行った。オランダとは貿易のみならず、例えば医療ではオランダ医学は江戸期に大きな役割を果たしたし、ヨーロッパの様々な情報が入って来る唯一の窓口であった。出島は人工島だったが、現在は周りが埋め立てられ陸地となっている。その長崎だが、幕末になると様子が違ってくる。坂本竜馬が長崎に亀山社中(貿易結社)を設置して活動を展開し、グラバー商会が長崎を本拠に武器・弾薬を売る動きを活発にし、さらに各藩の志士たちの出入りも活発になり、長崎に渦巻いたエネルギーがやがて倒幕へとつながっていった、そんな舞台が長崎だった。最後にもうひとつ。1944年8月9日、広島に続いて長崎に原爆が投下される。これによって8月15日、終戦のご聖断が下されたのだ。このことがなければあの戦争は終わらなかった。余りにも大きな犠牲を払ってしまった。長崎の地は現代史においても忘れてならないところである。世界の平和を願いつつ、今回の稿を終える。

中部地方の3座。尾瀬ヶ原の北にそびえる名峰。に挑戦

【今回挑戦した山の概要】(◎は日本二百名山、○は日本三百名山)

4/18~20

- 1 櫛形山 (◎くしがたやま、2052m、奥仙重、山梨県)・・・林道冬期閉鎖のため断念
- 2 七面山 (◎しちめんざん、1982m、山梨県、信仰の山)
- 3 入笠山 (○にゅうかさやま、1955m、長野県)

4/27~28

- 4 景鶴山 (○けいづるさん、2004m、新潟・群馬県境、はるかな尾瀬)

【櫛形山】

4月18日(水)午前雨、予報では午後から曇り、翌日から日曜日にかけて全国的に高気圧に覆われ晴れて高温になるとのこと。

急遽山に行くことにし、妻に2食分のおにぎりを作ってもらう。

ざっとした計画は、18日は移動、櫛形山の登山口で車中泊、19日午前櫛形山に登り、午後七面山登山口に移動しその日のうちに宿坊のある山頂直下まで登り(ヘッドランプ使用覚悟)、宿坊に泊まる。20日に七面山に登り、下山後移動し、入笠山を登る。21日土曜日の夕方までに帰宅するという計画。

13時出発。櫛形山を目指す。東北道久喜白岡JCT、圏央道八王子JCT、中央道甲府南ICで降り、途中何回か道を尋ね、増穂から池の茶屋林道(丸山林道)の登山口に向かうが、薄暗く急な林道をかなり上ったところの分岐のところで冬期閉鎖のため通行止めになっていた。

18:20、ここまで走行距離366km。今回の山行は前回の九州山行のように入念な計画をしたものでなかったため、櫛形山は次回の登山のための下見ということにしてあっさりとおきらめ、七面山登山口を目指す。林道を下る時、南東方面の開けたところがあり、遠く雲海の上に浮かぶ富士山に夕闇が訪れようとしていた。

【七面山】

19:45、約40km離れた七面山登山口の羽衣(はごろも)着。おにぎりを食べ車中泊。

19日(木)6時起床。ここは日蓮宗身延(みのぶ)七面山敬慎院の表参道の入口でもあり“信仰の気”が満ちて趣がある。車が7台ほど駐車していた。朝霧がかかるうっそうとした杉林と広葉樹の新緑に差し込む陽の光がきれいだ。予報によれば天気が崩れる心配がなく、櫛形山を断念した結果時間のゆとりができたことから気分的にもゆったりだ。

羽衣橋を渡った所の白糸ノ滝を写真に撮り、7:30参道入口を出発する。白装

東の年配の女性が入口の祠の前に座ってお参りしていた。

七面山は山頂直下の標高 1700mのところに、日蓮の高弟日朗上人という僧が鎌倉時代の 13 世紀末に創建した日蓮宗敬慎院の大伽藍を有する山で、信仰の山。春秋の彼岸の日に富士山の山頂からのご来光を本尊に当てるという発想で創建された由。

表参道は幅が 2m 位あり両側は杉の大木が続き、舗装はされていないものの良く歩かれている長いジグザグの道で、敬慎院まで 50 丁に区切られた石灯籠の標識がある。歩数で数えてみたが一丁が 200 歩から 300 歩で、どういう法則で区切られているのかは分からなかった。ベンチが配置され、人力坊や肝心坊などいくつかの坊がありトイレや給水・休憩ができるようになっている。5~6 グループの下山者とすれ違う。昨夜は宿坊に泊まった人たちだろう。中には白装束の女性と登山服装の二人組の中年女性が一心に掛け合いで“南無妙法蓮華經”を唱えながら降りて来る人たちもいた。

所々霧がかかって眺望は得られなかったが広葉樹の新緑が美しく、鹿の鳴き声や小鳥のさえずりも聞こえた。

10:45、敬慎院に着く。坂を登り隨身門をくぐったところが富士山の展望所（遙拝所）になっていて、雲海に浮かぶ富士山の素晴らしい眺めだ。

山頂にいたる道は細く登山道らしくなり、美しいカラマツ林を通り緩やかに登り、七面山の大崩壊地（ナナイタガレ）の縁に沿って登っていく。所々「危険」の標識とロープがはってある。こわごわ覗いてみる。崩壊は常時少しずつ進んでいる感じ。

40 分ほどで着いた山頂は伐採されていて小広いが周囲の樹木が密集していて展望は得られない。山頂標識で自撮りし、雲一つない青空の下昼食とする。山梨百名山の木柱、2 等 3 角点の石柱がある。

事前の調べで、この先往復 1 時間弱の所に展望が良いところがあるとされていたので、時間も余裕があり向かうことにする。杉林と広葉樹の山を一端下り、登り返したところに片側が開けている稜線上のピークがあり、小さな「希望峰」という標識が木に掛かっていた。展望が素晴らしい。

上部と沢筋に雪を残した、左から奥に聖岳、赤石岳、塩見岳、白峰（しらね）三山（農鳥岳、間ノ岳、北岳）、これら過去に登ったことがある百名山山行を思い出す。手前に黒々と横たわる笹が岳（ざるがたけ 2629m 二百名山）は今後の課題だ。

15 時前に敬慎院に戻り宿泊の手続きをする。宿坊は大きな行事の時は千人も泊まれるとのこと。

同室の神奈川県 70 歳代中頃の男性と石けんのない風呂に入る。10 人以上入れる大きさ。風呂から上がって、作務衣姿の僧侶に恐る恐る“ビールなんかはありますか”と聞いたら、“ありません、夕食の時に銚子 1 本の御神酒がつきます”

と言われた。同室の人と話しながら持参の焼酎をこっそりと口に運ぶ。

夕食は部屋に運んでくれたが自分たちで分ける。ご飯、味噌汁の他、たくわんのみじん切り、ひじきの煮物、にんじん・高野豆腐・椎茸・ゴボウの煮物。2合徳利が3本（6人分）付いていた。（朝食はさらに質素だった）

朝夕の「お勤め」にも参加してみた。宿泊者10人（*）（男6人、女性4人）のうち7人が日蓮宗の信者だった。4時間もかけて登ってくる人たちだからこそかも知れないが、半袈裟をかけ、数珠を手に、お経をそらんじていて7人のお坊さんの読経に合わせて“南無妙法蓮華經”を唱えていた。

（*）お勤めの時に在住の都道府県名と氏名が読み上げられた。地元山梨の人は4人で、「山梨百名山」ビデオ版作成のカメラマンがいた。神奈川、千葉、宮城、北海道の人もいた。

20畳くらいの大部屋の片側に1枚の長い敷き布団が敷かれ6人が並んで寝た。

朝は5時から「お勤め」が始まるが、ご来光を拝した後に参加することも可能で、5時前に遙拝所に行くと若い坊さん一人と宿泊者6人がいた。今の時期は富士山の手前左側の毛無山（*）からの日の出となる。雲海の上に黒く毛無山の連山が横たわり、右側に圧倒的なボリュームの富士山が浮かんでいて、刻々とオレンジ色の朝焼けが濃さを増していく。5:15山の端から太陽が顔をだす。小さい太鼓をたたく若い坊さんと信者の方達が“南無妙法蓮華經”を唱和する。

（*）けなしやま、1945m、山梨・静岡県境、二百名山、昨年5/22登山

本堂の「お勤め」に合流した後朝食を摂り、6:20に敬慎院を後にし、北参道を奥の院を経て角瀬（すみせ）に向かう。こちらは表参道と異なり、利用者は少ないようで、いくつかの坊も閉鎖されていて、2時間半誰にも会わなかった。下山後タクシーで4km先の羽衣登山口に向かう。移動。

【入笠山】

中央道諏訪南ICを降りて、コンビニで道を確認し沢入り登山口を12:20に出発する。森林帯の中の良く整備されていて傾斜も緩く歩き安い道だ。なぜこんな楽な山が三百名山に選ばれているのかと思いながら歩いて行くと、木道が整備されている入笠湿原を経て13:55山頂に着く。

山頂に立ってその意味が理解できた。この山は「展望」の山だった。

かつて登った、東は八ヶ岳連峰、南には甲斐駒ヶ岳や仙丈ヶ岳が間近に迫り、西南の中央アルプスの連山がまだら雪模様の表情を見せている。北面の北アルプスは霞んでいる。

ガイドブックに“南アルプス北端にある花と星の名山”とあるように入笠山は花の百名山としても人気が高く、6月中旬にはスズラン、ハナショウブ、クリンソウ、ヤナギランなどが咲き競うとのこと。今回のコースでは見なかったがゴンドラリフトも運行しているとのこと。

山頂で1時間ゆっくりし、若いご夫婦と山談義をする。
中央道、圏央道、東北道を乗り継ぎ 21 時帰宅する。

【景鶴山】

ゴールデンウィーク後半には孫達が来るので、自宅にすることにし、前半に行ける所を検討した結果、尾瀬ヶ原の北にそびえる景鶴山に行くことにした。この山は東京電力所有の山で、1967 年から自然保護のために入山禁止になっている山。かねてから気になっていていろいろ調べたり山のガイドさんに尋ねたりしていた。

夏道は廃道になっていて、もちろん藪漕ぎのため、また自然に負荷が大きいことから登れない。ただ積雪のあるうちは“黙認”状態とのこと。

群馬県側の鳩待峠までの林道の冬期閉鎖が解除になり、しかも戸倉から峠までの交通規制のない 4 月下旬から 5 月中旬までの残雪期間が私たち素人登山家の登れる時期でもある。この期間を逃すと 1 年後になる。

4 月 27 日（金）妻に 2 食分のおにぎりを作ってもらい、14:30 自宅発。東北道宇都宮 IC から日光道に乗り継ぎ、清里 IC で降りて中禅寺湖、金精峠を越えて片品村に入り鳩待峠着 18 時。広い駐車場には 20 台くらいあった。10 年以上前に近所の人たちと登った夏の至仏山以来だ。その時は交通規制で戸倉からのバス利用だった。

駐車場から 100m ほど登った先の広場で、尾瀬ヶ原の西端山ノ鼻に行く登山口を確認し、鳩待山荘に寄って概念図を貰い駐車料金を支払う。暦日で 1 日 2,500 円とのこと。持ち合わせがなかったので取りあえず 1 日分だけ支払う。高すぎると抗議する。一つの山に登るのに駐車料金が 5,000 円とはベラボーな！

夜中に駐車場に入ってくる車の音がする。天気予報では晴れだったが、雨が降ったりやんだりで風もかなり強く荒れている感じ。4 時起床、5 時出発の予定にしていたが風雨が弱まらないので、おにぎりを食べ窮屈な車中で準備を整えて出発を遅らせて様子を見る。駐車場はほぼ満杯になっていた。マイクロバスの団体さんも来ていた。多くは至仏山登山か尾瀬ヶ原ハイキングの人たちと思われる。

前夜の夕食中に車の窓をたたかれて話をして、やはり景鶴山に登るということで一緒に行く約束をした若者が 5 時頃やってきて、寒く、服装が心配なので今日の登山はやめにすると伝えてきた。行ける所まで行きましょう、登れなくても下見と考えれば良いのではと伝えてみたが、若者は行かないと言う。昨夜は薄着の若者を見てうらやましいと思ったのだが。結局今回の山行も一人。

風はあるが雨がやんだので、5:45 出発。ビジターセンターや山荘のある山ノ鼻を經由し雪が少なくなり黒い湿原が現れている尾瀬ヶ原の木道をひたすら歩

く。正面に沢筋に雪の残る燧ヶ岳を望み、振り返ると至仏山が薄い青空を背景に白と黒の優しい山容でたたずんでいる。

途中自分と同年配で以前に景鶴山に登ったことのある男女のペアと一緒に、尾根への取り付きまで後をついて行くことにする。橋桁が外され鉄骨だけになったヨッピー吊橋を渡り東電小屋の手前で左手の山に入る。雪上の踏み跡も雨が降って分かりにくくなっている。笹やとげのついた低木を踏み分けていく。一人だったらあきらめていたかも知れない。

二人が休憩したので先行させてもらう。踏み跡がはっきりしてきて、山頂までの間に下山する 3 パーティとすれ違う。皆アイゼンを着けている。昨夜の雨は雪にはならなかったらしく、凍ってもいらないのでスノーシューもアイゼンも着けずに歩く。

12:10 山頂着、出発から 6 時間半、雪が少なくなって尾根の取り付きまでの間藪が出てきていたこと、岩稜の山頂付近も雪が少なく慎重な歩きを強いられたことなどで時間がかかった。少ししたら取り付きまで先導してくれたペアが登って来た。山頂は細長く狭く踏み場は少ない。小さな山頂標識が木にかかっていたが、見逃して先に進み少し危ない思いをした。

山頂からの眺めは実に素晴らしかった。尾瀬ヶ原は雪解けが進み黒々とした湿原の面積が多くなっている感じ。木道も半分以上は雪がない。燧ヶ岳、至仏山は言うに及ばず、新潟県側の平ヶ岳がすぐ近くに見える。越後三山は樹木の間から特定できなかった。2600m 近い関東以北最高峰の日光白根山はすぐに同定できる。至仏山に一部隠れて武尊（ほたか）連峰、遠くに赤城山も見える。

1 時間をかけて眺望を満喫し、アイゼンを装着して下山にかかる。下っていくと“ザーザー”という麓を高速道路が通っているような音が聞こえる。沢の音だ。尾根から離れ尾瀬ヶ原に出るところの大きな方向性を誤らないように藪をこぐ。登りの時と違った東電小屋寄りの木道に 15:30 着。

誰も歩いていない尾瀬ヶ原、夕暮れ時の静かな燧や至仏の景色を一人楽しむ。

カラフルなテントがいっぱいで食事中的の多くの人たちで賑わう山ノ鼻 17:18 着、鳩待峠駐車場 18:25 着。当初計画では 9 時間か多くても 10 時間と思っていたが、天気が良く、休憩や藪こぎなどのため 12 時間 40 分かかった。

その結果、駐車場の管理の人もなく、わざわざ鳩待山荘まで申告に戻り 2,500 円を支払わなくても良いことにした。

木道歩きが足にきた。筋肉痛の塗り薬で手当てし 19 時出発し、22 時半自宅着。

★ そろそろ、シロアリの出る季節です！ ★

4月～7月の間はシロアリの活動時期なので、羽アリを見つけたらシロアリか普通のアリか確認してみましょう。

お風呂場、洗面所、台所など湿気の多い所に発生しやすく、その原因は様々です。

地盤の排水をよくし、生活排水、雨水などの水だまりを作らないようにするなど、木材の湿気を防がなければなりません。

シロアリは木材の内部を中心に浸食するため、木材の表面を食い荒らしているのを見つけたときには、内部も食い荒らされてしまっているでしょう。柱1本なら、数か月で食い尽くしてしまうそうです。

被害を未然に防ぐためにも、定期的なチェック、メンテナンスは大切です。実際に被害に合った場合は、被害の大小を問わず早めの対処が必要です。浸食された部分を取り除き、補強する必要があります。場合によっては、新しい材と取替えなければなりません。また、他の材についても表面は丈夫に見えても、内部が被害に合っているかも知れないので、きちんと調べる必要があります。

何か少しでも気になることがございましたら、どうぞお気軽にご連絡下さい。

平成30年5月5日 発行
有限会社 幸田建設
＜発行責任者＞幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
☎0243-44-3816

＜後記＞

五月晴れの空を元気に泳ぐこいのぼり。風が弱まるとこいのぼりをつかまえようと子どもたちが精一杯手を伸ばし飛び上がります。子どもたちのはしゃぐ姿は私たちに活力を与えてくれるようです。

(事務員k)